

CSR

Report 2020

Corporate Social Responsibility



CONTENTS

トップメッセージ	01	人材育成	15
会社概要	02	環 境	
事業紹介	04	環境マネジメント	16
ステークホルダーエンゲージメント・ビジネスモデル	07	環境パフォーマンスデータ	20
環境配慮商品	08	事業活動と環境影響	21
お客様		調 達	23
お役立ち活動	09	社会貢献活動	24
アフターサービス・商品リサイクル	10	コンプライアンス	25
品質マネジメント	11	コーポレートガバナンス	26
従業員			
雇用促進	12		
安全衛生・労使関係	14		

トップメッセージ



株式会社トランテックス
代表取締役社長

原田 泰彦

2019年度は1万3千台強のトラックボデーを生産し、多くのお客様に商品をお届けするとともに喜んでいただくことができました。これからもお客様の頼れるパートナーであり続けられるように商品・サービス・情報をお届けさせていただきますので、引き続きトランテックスの事業活動に対するご支援とご協力をお願い申し上げます。

2020年度は新型コロナウイルスの影響を受ける形でスタートし、当社でも全社を挙げて感染予防に努めながら営業活動・生産活動を行っています。事業への影響がどの程度に及ぶのか不透明なところがありますが、この難局をアフターコロナに向けた業務改革のきっかけと捉え、お客様や仕入先様とともに乗り越えていきたいと考えております。

さてトランテックスは2020年度を中長期的に大きく成長・飛躍するための起点の1年と位置付けています。具体的には生産拠点の改革、地域の拡大、商品拡大を行っていきます。生産拠点の改革の中心は昨年度より取組んでおります日野自動車古河工場構内の新工場建設であり、2021年度中の生産開始を予定しています。コンパクトでムダのない工場で、短納期・高品質のボデーを生産することを目指しています。地域の拡大は2019年度に設立したタイのバンコク駐在員事務所を拠点に、現地企業の協力を得てモニター車を含めた商品を納車させていただいております。現地の環境にあうボデーの開発を継続しながら、海外での生産拡大を目指していきます。商品の拡大はお客様のニーズを丁寧にくみ取りながら、既存の各商品ラインナップの改良を進め、またこれまで未開拓であった市場への商品投入も視野に入れていきます。とくに小型車の充実・拡充についてはお客様の期待するところと感じており、小型完成車を皮切りにお客様のニーズにあった商品の生産を行うと同時に生産能力の向上も進めていきます。

今、企業は持続可能な社会を実現させるための事業活動が求められています。トランテックスは引き続きコンプライアンス経営を基盤とした事業活動、従業員が今以上に安心して働ける職場環境やゼロ災害職場の構築、日野グループが求める商品品質の維持・向上、そして日野グループの一員として「日野環境チャレンジ2050」を意識した環境活動を行いながら、お客様、仕入先様、地域社会や従業員などの全てのステークホルダーと密に対話し、求められている期待に応え支持される企業であるように努めてまいります。

会社概要

株式会社 トランテックス

- 本社所在地 石川県白山市徳丸町670番地
- 設立 1930年3月
- 創立 2002年10月
- 資本金 11億円
- 従業員数 1,302名
- 製品 トラックボデー、特殊車両



ウイングシリーズ

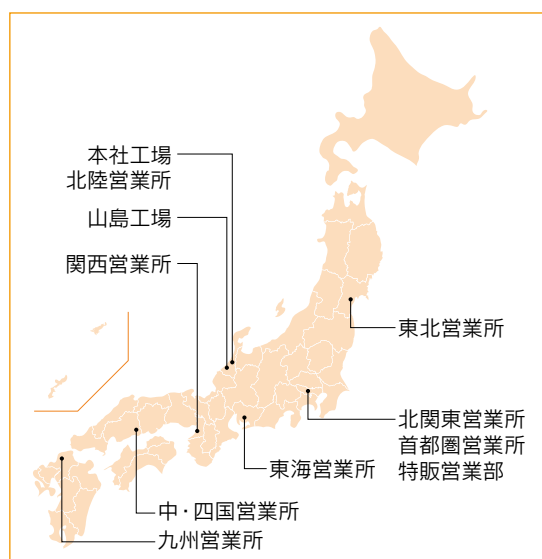


バンシリーズ



ブロック塼シリーズ

● 生産・販売拠点



トランテックス基本理念

基本理念は会社の使命と基本方針からなり、私たちトランテックスが社会の中で存在する意義、社会に対して果たすべき責任や方針を明確にしております。

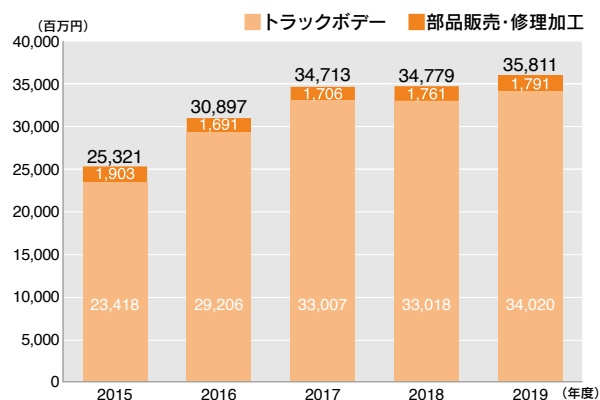
会社使命

- 地球環境に配慮し、輸送文化を創造し、未来社会に貢献する
- お客様に信頼され、頼れるパートナーとして輸送・物流をリードする

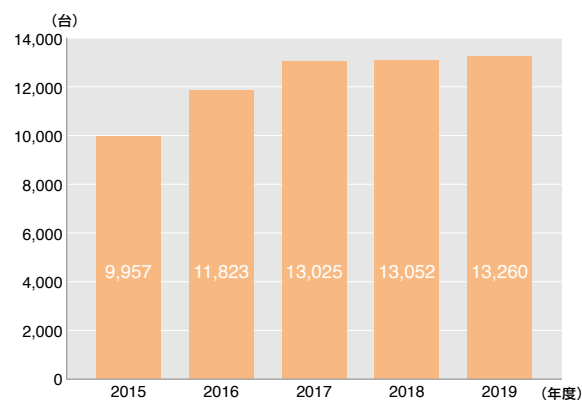
基本方針

- 人と地球環境に配慮し、社会とのつながりを大切にする
- 常に技術革新に努め、お客様のお役に立つ商品やサービスを提供する
- 変化を的確に捉え、社会との調和を図り、グローバルな視点で事業展開を行う
- 社員の能力を最大限に発揮し、プロ集団としての総合力を高める

売上高推移



トラックボデー生産台数推移



決算の要旨 (2019年度末)

貸借対照表

単位：百万円未満切り捨て

科 目	金 額	科 目	金 額
資産の部		負債の部	13,693
流動資産	14,399	流動負債	10,892
固定資産	8,217	固定負債	2,801
有形固定資産	6,377	純資産の部	8,923
無形固定資産	235	株主資本	8,453
投資その他の資産	1,604	評価・換算差額金	470
資産合計	22,617	負債純資産合計	22,617

損益計算書

単位：百万円未満切り捨て

科 目	金 額
売上高	35,811
売上原価	30,501
売上総利益	5,309
販売費及び一般管理費	2,755
営業利益	2,554
営業外利益	57
営業外費用	13
経常利益	2,597
特別利益	235
特別損失	87
税引前当期純利益	2,745
法人税・住民税及び事業税	954
法人税等調整額	△ 96
当期純利益	1,886

事業紹介

大・中・小型のトラックボデーを開発・設計・製造・販売し、アフターサービスとしてリニューアル工事や部品販売を行っています。

トラックボデー生産

■大型車シリーズ

長距離、大量輸送に欠かせない大型シリーズです。積載量重視型、容積重視型、専用輸送型など、おすすめ仕様のほか、用途に合わせた最適ボデーをご提案いたします。

ドライバン



ハイスター・バン（ハイスライダー付）

冷凍バン



ハイスター・冷凍

フラットパネル冷凍バン



ハイスター・冷凍

ドライウイング



ハイウイングMAX

冷凍機付ウイング



ハイウイングMAXクール（冷凍機付）

冷凍ウイング



ハイウイング・コールド“S”

幌ウイング



ワンタッチ幌（手動式）

ブロック煽り



ハイブロック

■中型車シリーズ

配送から長距離輸送まで、あらゆるシーンで活躍する中型車シリーズです。軽量タイプや、おすすめ仕様のほか、用途に合わせたボデーをご提案いたします。

ドライバン



ハイスター・バン

冷凍バン



ハイスター・冷凍

フラットパネル冷凍バン



ハイスター・冷凍

フラットパネル冷凍バン



ハイスター・冷凍（床下格納式リフター付）

冷凍機付ウイング



ハイウイングMAXクール（冷凍機付）

ドライウイング



ハイウイングMAX

幌ウイング



ワンタッチ幌（手動式）

ブロック煽り



ハイブロック

■小型車シリーズ

市街区の集配から中・近距離輸送に最適、機敏な小型車シリーズです。

ドライバン



ハイスター・バン

フラットパネル冷凍バン



ハイスター・冷凍

ドライウイング



ハイウイングMAX

ブロック煽り



ハイブロック

リニューアル・部品販売

ボデーの載せ替え、キャブ・ボデー塗装、リア扉外板張替え、デザイン文字製作等や修理・ドレスアップ用の部品販売を行っています。

■ドレスアップ部品の一例

【アルミ製及びステンレス製サイドガード】



アルミ角パイプ型



ステンレス丸パイプ型



ステンレス角パイプ型

【煽り中間部ウイングロック】



オールステンレス製



BOX本体のみ
ステンレス製

ステークホルダーエンゲージメント

ステークホルダーとの関わり

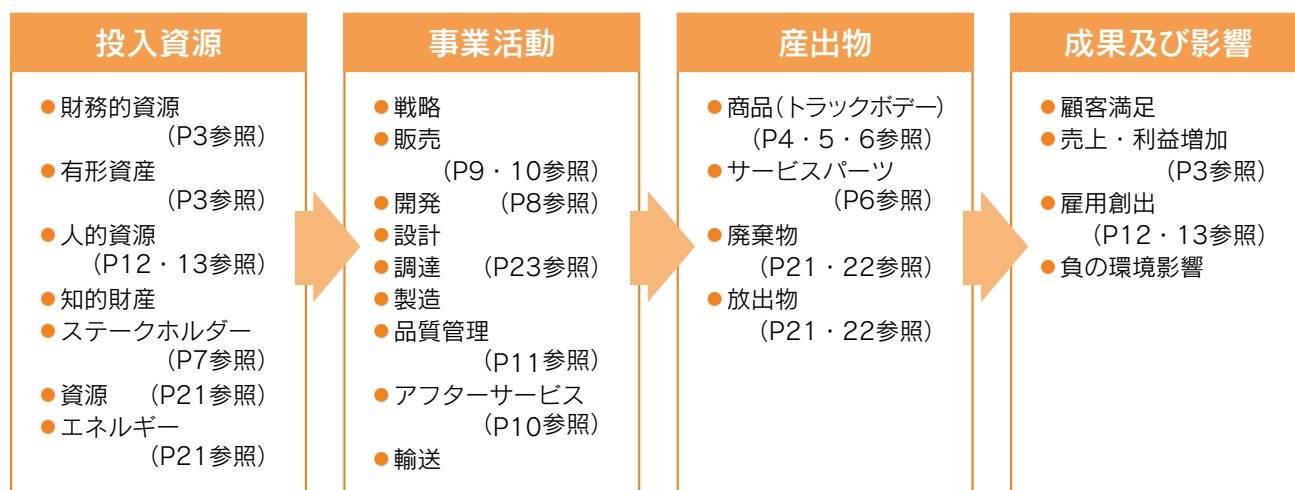
当社はお客様、仕入先様、従業員、地域社会を重要なステークホルダーと位置づけ、それぞれと良好な関係を維持することが安定的・持続的な成長には不可欠であると認識し、担当部署を中心に積極的なコミュニケーションを図っています。

ステークホルダー	重要な課題	コミュニケーション手段	参照頁
お客様	環境配慮商品の提供、お客様に役立つ情報提供、品質保証、迅速な対応とサポート	● 日常の営業活動 ● お役立ち活動メニューの提供 ● 定期訪問	P9・10・11
仕入先様	より良いパートナーシップに向けた適時・適切な情報共有	● 仕入先会議（毎月） ● 仕入先総会（年1回）	P23
従業員	労働安全衛生の推進、人材の積極採用・育成、処遇改善、コンプライアンス	● 社内報 ● 研修、教育 ● 安全衛生委員会 ● 相談窓口	P14・15・25
地域社会	環境保全、社会貢献活動	● 地域懇談会（年1回） ● ボランティア清掃（原則毎月）、海岸清掃（年1回）	P24

ビジネスモデル

ビジネスモデルの概要

下図は当社のビジネスモデルの概要について「投入資源」・「事業活動」・「産出物」・「成果及び影響」に分けて表現したものです。当社は持続的に価値を産み出す仕組みを維持・改善し、基本理念に掲げる「地球環境に配慮し、輸送文化を創造し、未来社会に貢献する」「お客様に信頼され、頼れるパートナーとして輸送・物流をリードする」企業を目指していきます。



環境配慮商品

環境配慮商品の開発

当社では環境に配慮した商品として高積載を実現している大型・中型ウイングボデーや低燃費を実現している空力改善ボデーを提供しています。

■ウイングボデー

益々高まる高積載ニーズに対し、現行モデルは従来モデル比約100kgのボデー軽量化を実現し積載量がアップしているだけでなく、品質向上、安全性や使い勝手、メンテナンス性にもこだわって開発しています。



【従来モデルからの主な変更点】

アルミ型材製の サイドエンド

アルミ化による軽量化と溶接レス構造化で歪みがなく、防錆力もアップ。



樹脂製ハ型 フェンダー

樹脂化による軽量化と、欧州トレンドのデザイン採用による外観品質を向上。



■空力改善ボデー

テーパー付後構造の採用により走行時の空気の整流化を図り空気抵抗を大幅に低減し、低燃費の実現を図っています。また、後扉に一体型ヒンジを採用しています。

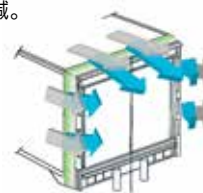


ボデー後方の空気の流れを改善し空気抵抗を低減

【主な特徴】

空力改善構造

荷台後端部の3方に角度をつけることで渦が出来る空域が狭くなり、空気抵抗が低減。



通常の構造

空力改善構造

一体型Wヒンジ

荷役作業中の冷気漏れ防止やシェルターラバーの傷つき防止も実現。



お客様

お役立ち活動

営業部門は本業であるボデー販売はもちろん、お客様の様々なご要望・お悩みにお応えし、お客様の本業の発展に少しでも貢献させていただきたいと考え、「お役立ち活動」を行なっています。「お役立ち活動」の一環で、お客様に当社の持つノウハウをご提供させていただく「お役立ちメニュー」は18種類をご用意させていただいております。

冷凍バンの取扱について	ウイングの取り扱いについて
◆メニューのねらいどころ 冷凍バンに不慣れなトラック乗務員による事故や不具合が心配というお客様の問題解決のお手伝いをします。  ◆内容 予冷や庫内換気、日常点検等冷凍バンをお使いになる際の基本的な注意点をご説明いたします。 ◆実施要領 ①受講対象者：トラック乗務員(特にアルバイト乗務員等不慣れな方) ②所要時間：20～30分 ③場所：会議室等 ④実施人数：数名から実施いたします。 ◆効果 冷凍ボデーの使い方を理解いただく事で安全で無理、無駄のない運送を行う事ができます。	◆メニューのねらいどころ ウイング車の事故、修理でお悩みのお客様へご提案いたします。  ◆内容 開閉操作や荷物の積み方など、ウイングをお使いになる際の基本的な注意点をご説明します。 ◆実施要領 ①受講対象者：トラック乗務員 ②所要時間：20～30分 ③場所：会議室等 ④実施人数：数名から実施いたします。 ◆効果 ボデーや積荷の損傷を防ぎ、安全安心な運行が可能となります。
車輛後退時の安全確認講習	テールゲートの安全操作
◆メニューのねらいどころ 車輛後退時の事故が心配、又はトラック乗務員への安全教育を考えているお客様へご提案いたします。  ◆内容 バックミラーの死角やバックカメラのモニター映像の特性についてご説明します。 ◆実施要領 ①受講対象者：トラック乗務員 ②所要時間：20～30分 ③場所：車輛での説明 ④実施人数：数名から実施いたします。 ◆効果 事故を防ぎ、修理費の低減へつなげる事ができます。	◆メニューのねらいどころ ゲート操作中の事故が心配、又はトラック乗務員への安全教育を考えているお客様へご提案いたします。  ◆内容 事故事例を紹介しながら操作する際の注意点、ゲート装着車の特性を説明します。またゲートを操作しながら操作及び点検方法を説明します。 ◆実施要領 ①受講対象者：トラック乗務員 ②所要時間：80分 ③場所：会議室及び現車 ④実施人数：数名から実施いたします。 ◆効果 ゲート操作時の事故を減らす事ができます。

(上記以外のお役立ちメニュー)

- 冷凍バンでの品質管理について
- ウイングへの安全な荷積みについて
- 荷卸し作業KYT
- リヤボデーお手入れ方法のご提案
- コンプライアンス講習
- 冷凍ボデーのメンテナンス
- ウイングボデーのメンテナンス
- トランテックス安全管理手法のご紹介
- トランテックス改善事例のご紹介
- 体調管理講習
- 冷凍車の商品知識
- ロールボックス輸送の注意点
- ラッシングベルト使用時の注意点
- 乗務員様マナー研修

【お役立ち活動実施事例のご紹介】

【中四国営業所】

- 実施先：運送会社様
- 実施内容：ウイングボデーの取扱いについて
- 参加人数：5名
- 参加者の声

「普段からウイングを使っていますが、運転手さんたちはあらためて操作の仕方や注意点などを再認識出来たと思います。今回の車両はきれいに長持ちさせたいので、作動油の交換や点検など日ごろから行っていききたいと思います。」



【九州営業所】

- 実施先：運送会社様
- 実施内容：バックアイカメラの使用方法等
- 参加人数：15名
- 参加者の声

「バックアイカメラは普通車とは少し違うので、目視確認を実行したいです。」



アフターサービス

アフターサービスNO.1を目指して

アフターサービス部門ではお客様に商品をお届けした後も、定期訪問状況や有事発生時の対応状況を数値化し、アフターサービスNO.1に向けて活動をしています。また、お客様の身近な存在として全国の販売会社様および全国160を超えるSS店様と連携しながら、すばやく正確な修理を実施し、お客様にご満足いただけるアフターサービスを目指しております。

全国SS店
160店



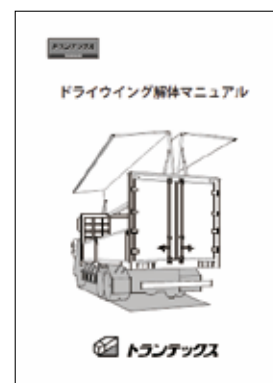
- ① 部品・サービス部、北陸営業所
- ② サービス関東事務所
- ③ 東京事務所
- ④ 東海営業所
- ⑤ 関西営業所
- ⑥ 中・四国営業所
- ⑦ 九州営業所
- ⑧ 東北営業所

商品リサイクル

自動車リサイクル法の対象は乗用車・商用車(キャブ付シャシー)と一部の架装物となっています。当社の商品であるドライバン、保冷・冷凍バン、ウイングバン等はリサイクル法の対象外ですが、リサイクル処理ができるように一部の商品につきましては解体マニュアルを作成し当社ホームページで情報提供しています。

【解体マニュアル対象商品】

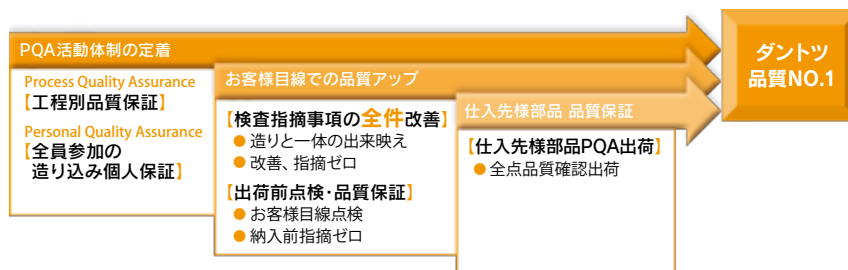
- ドライバン
- ドライウイング
- ウレタン注入発泡 保冷・冷凍バン
- ポリスチレン接着パネル 保冷・冷凍バン
- 冷凍ウイング
- 冷蔵ウイング
- 幌ウイング
- 平ボデー



品質マネジメント

品質管理活動方針

当社では①PQA活動体制の定着
②お客様目線での品質アップ③仕入先様部品品質保証の3点を具体的な取組み方針とした「ダントツ品質NO.1」を品質管理活動方針としています。



品質管理体制

工程別品質保証をベースに、毎日開催する稼働会議（※）でも品質課題について関係者全員で共有しています。また、月1回、全役員が参加する品質会議も開催し、重要品質問題についての対応状況等について意見交換も実施しています。

（※）生産部門・生産管理部門・品質保証部門・開発部門の責任者が参加し、前日の生産状況を振り返り対応課題の明確化等を行う会議体。



出荷品質表彰

当社は2019年度、ドライラインおよび冷凍ラインが年間を通じて日野グループの出荷品質基準を満たし、ダイヤモンド賞を受賞しました。ドライラインは3年連続、冷凍ラインは初受賞となります。

引き続き品質管理に努め、お客様に満足していただける商品をお届けいたします。



リコールへの取り組み

商品に問題が発生し処置が必要と判断した場合には、お客様の安全と被害の拡大防止を最優先に部品交換、改修（点検、修理等）を迅速に実施しています。またリコール情報はトランテックスのホームページ上に開示しています。2019年度は3件のリコールが発生しました。

リコール件数

2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
1件	0件	1件	0件	3件

改善対策件数

2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
0件	0件	0件	0件	0件

サービスキャンペーン件数

2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
0件	0件	0件	0件	0件

◆リコール

道路運送車両の保安基準に適合していない又は適合しなくなるおそれがある状態で、その原因が設計又は製作過程にあると認められるときに、自動車メーカー等が、保安基準に適合させるために必要な改善措置を行うことをいいます。

◆改善対策

不具合が発生した場合に安全の確保及び環境の保全上看過できない状態であって、かつ、その原因が設計又は製作過程にあると認められるときに、自動車メーカー等が、必要な改善措置を行うことをいいます。

◆サービスキャンペーン

リコール届出や改善対策届出に該当しないような不具合で、商品性・品質の改善措置を行うことをいいます。

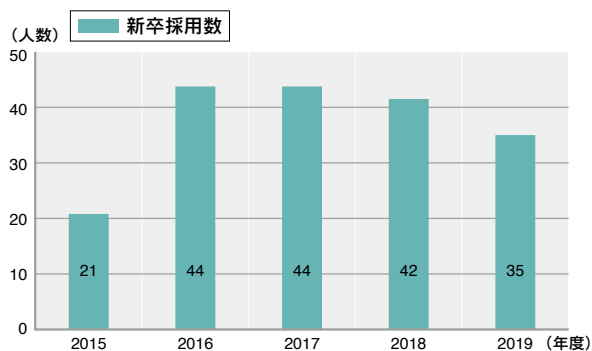
従業員

雇用促進

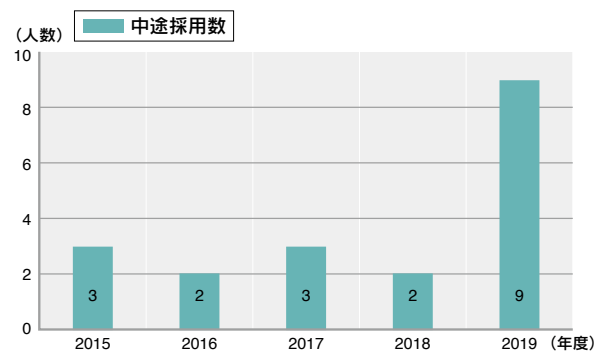
新規正社員雇用への取り組み

多様な人材を様々な年代・経歴から採用するため、新卒採用に加えて即戦力としての中途採用、そして期間従業員からの正社員登用を積極的に行っております。2019年度は大卒・高卒を含めた新卒採用で35名（女性6名含む）、中途採用で9名、期間従業員の正社員登用で14名の採用を行いました。

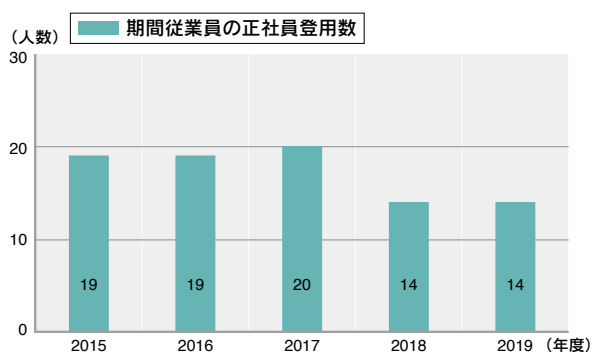
【新卒採用数の推移】



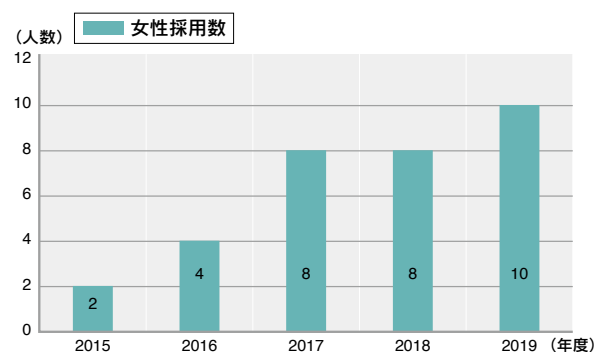
【中途採用数の推移】



【期間従業員の正社員登用数の推移】



【女性採用数の推移】



育児休暇の取得状況

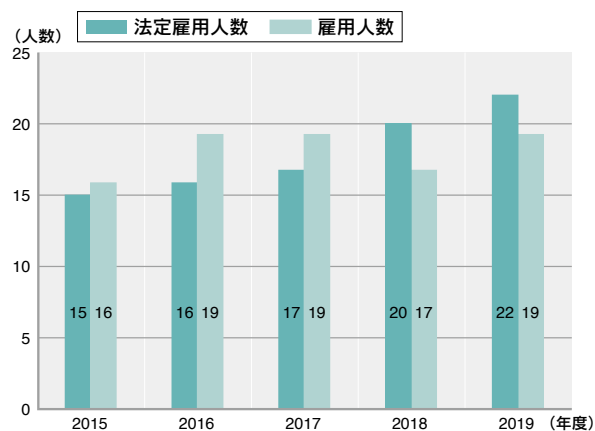
育児休暇の取得対象者31名に対して実際の取得者は1名でした。仕事と育児を両立して活躍できる職場づくりに向けて、より制度を利用しやすい職場環境づくりを進めていきます。

	人 数
育児休暇を取得する権利を有していた従業員の総数	31 名
育児休暇を取得した従業員の総数	1 名

障害者雇用の状況

製造部門を中心に働きやすい環境整備を進め、積極的に障害者雇用を進めています。2019年度は障害者法定雇用人数22名に対して19名の雇用となっていますが、これからも一人でも多くの雇用・定着に繋がるように社内改善を進めるとともに各種団体のご支援を受けながら、取り組みを進めていきます。

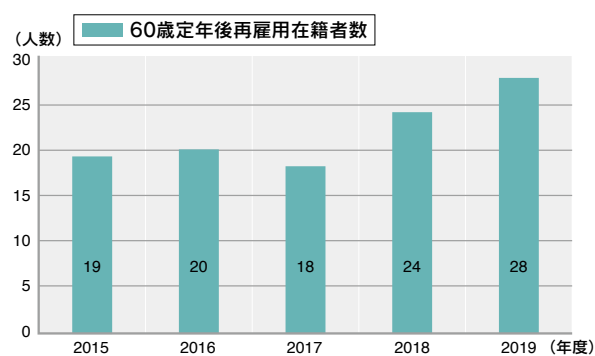
【障害者雇用人数の推移】



60歳定年後再雇用の状況

製造・設計・販売等の各段階で品質維持向上のため、技術に習熟し経験を積み重ねた従業員の確保が必要とされ、また一方で、60歳定年後もこれまで培った技術・経験を活かして働きたいという方にも安心して働ける職場の整備も必要となっています。当社では定年退職の再雇用を積極的に進めており、2019年度は28名を再雇用させていただいております。

【60歳定年後再雇用在籍者数の推移】



安全衛生・労使関係

安全衛生への取り組み

当社は「安全は全てに優先する」を安全衛生基本理念に掲げ、総括安全衛生管理者をトップに、産業医と連携しながら「人への安全意識向上」「安全対策」「快適職場環境づくりの推進」「心身の健康管理」「通勤災害の防止」の5つの観点から各種取り組みを実施し、自主自立の安全文化構築を進めています。2019年度の災害発生件数は8件、度数率は0.99となりました。引き続きゼロ災害達成に向けて全社をあげて取り組んでいきます。

【2019年度の主な活動】

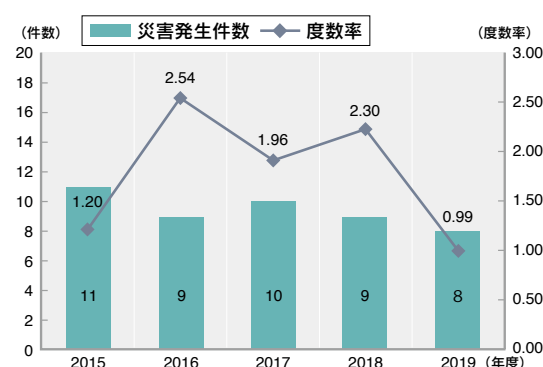
実施事項	
人への安全意識向上	危険撲滅やりきり活動の継続
	予防保全活動の継続実施
	安全プロセスシート活用による自己診断と弱みの改善
	安全パトロール強化による安全性度向上
	安全人間づくり
安全対策	重災防止活動
	切創防止対策
快適職場づくりの推進	熱中症対策の実施
心身の健康管理	定期健康診断結果に基づく健康指導
	メンタルヘルス対策の推進
通勤災害の防止	健康知識の習得
	交通ルール順守徹底

安全衛生基本理念

「安全は全てに優先する」

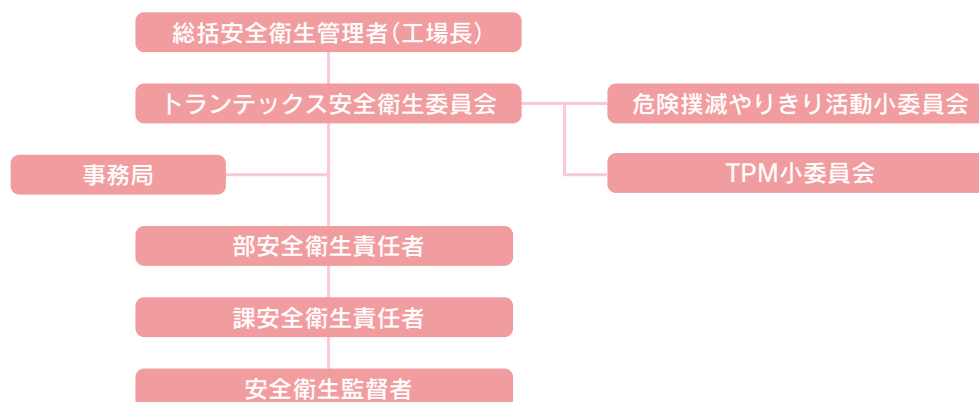
- 安全なくして、企業の発展なし
- ルールを守らずして、安全なし
- プロとしての自覚なくして、安全なし

【災害発生件数と度数率】



安全衛生組織

当社では安全衛生活動を円滑に推進するためトランテックス安全衛生委員会を毎月1回開催しており、委員会構成メンバーは委員長1名（工場長）、副委員長2名（うち1名は労働組合委員長）、会社側選任の15名の従業員、労働組合側選任の15名の従業員、産業医1名、及び各子会社代表者となっています。また、トランテックス安全衛生委員会の下には2つの専門小委員会を設置し、効率的に且つ重点的に活動を行う体制を整備しています。



労使関係

トランテックスとトランテックス労働組合は定例の労使会議を持ち、様々な検討を重ね、労働条件の改善に努めています。また、労働組合側からの職場環境改善要求を通じて一歩ずつ改善を進めています。

人材育成

人材育成の取組み

当社従業員の共通の価値観として「私たちの志（情熱・挑戦・思いやり）」と「私たちの実行（創意工夫・進化・結束）」を掲げ、従業員のスキルや能力の開発・向上のため階層別研修や専門教育を実施しています。これからも従業員一人ひとりがもつ能力を十分に発揮できるように、社内教育の改善・充実を行っていきます。

【トランテックス・スピリット】

私たちの志	私たちの実行
情熱 出来ない言い訳はない。課題・問題を解決するため、全力を尽くして取り組みます。 挑戦 技能・能力を高めるため、自ら高い目標を掲げ挑戦します。 思いやり 後工程やお客様に満足していただくため、常に細心の心配りをします。	創意工夫 品質向上のため、あらゆる知恵を絞り、スピード感を持って、自らが進んで改善を行います。 進化 今日よりも明日、より成長するため、何事にも自ら進んで行動します。 結束 組織力を高めるため、自ら進んで仲間と協力します。

【階層別教育体系】

	事務職	技術職
部長クラス	部・次長クラス研修	
次長クラス		
課長クラス		
中堅クラス	係長・主任クラス研修	新任工長研修
		新任職長研修
		新任指導員研修
		QC研修
		TWI研修
新入社員	新入社員研修	

【2019年度に実施した主な階層別研修】

	内 容	受講者数
階層別研修	新入社員研修・フォローアップ研修	35名
	新任管理職研修	4名
	ハラスメント研修	108名
	部・次長クラス研修	41名
	課長クラス研修	37名
	係長・主任クラス研修	81名
部門別研修	製造部門 新任職長研修	7名
	製造部門 新任指導員研修	7名
	製造部門 TPS研修	20名
	製造部門 TWI研修	36名
	製造部門 QC研修	3名



環 境

環境マネジメント

環境基本方針

トランテックスは地球環境の保全を経営における最重要課題の1つであるとの認識のもと、2003年10月、企業理念に基づく「トランテックス地球環境憲章」を制定し、環境保全活動を積極的に進めています。

■基本方針

1. 地球環境の保全を総合的かつ長期的に進める

地球環境問題は、重要かつ深刻であるとともに、自動車は広い範囲でこの問題に関わっているとの認識のもとに、全社を挙げて、仕入先等の関係者とも協力して、開発から生産、販売、使用、廃棄に至る全ての段階における環境への影響を考慮した環境保全のための対策を、長期的視点に立って推進する。

2. 地球環境の保全を広い視野で身近な行動から進める

豊かで住みよい地球をめざして、事業活動の範囲内だけでなく、社会においては良き市民として、地域社会においては良き隣人として、環境保全のための行動を進める。

■行動指針

1. 環境負荷のより小さい事業活動をめざす

- 工場・事業所の立地における環境への配慮
- 地球環境にやさしいトラックボデーの開発
- 排出物を極力出さない生産活動
- 省エネルギーと省資源、リサイクルの推進

2. 関係者と協力しながら進める

仕入先、関係会社等と協力し、事業活動の様々な段階において、また、事業所の内と外とにおいて、環境保全に努める。

3. 社会への貢献を心がける

社会においては良き市民として、また、地域社会においては良き隣人として、社会や地域における環境保全の諸活動に協力する。

4. 自己啓発を図る

社会に対して開かれた企業として、また、企業人であるとともに良き市民として、地球環境問題に関して広く社会に学び、会社ならびに社員ともに自己啓発を図る。

本社・工場環境方針

本社・工場では基本理念、トランテックス地球環境憲章及びトランテックス地球環境行動計画等を受けて、本社・工場の環境に与える影響（著しい環境影響）、関連法規、利害関係者との関係等を配慮し、継続的改善及び汚染の予防のための基本方針（行動原則）として、本社・工場環境方針を定めています。

トランテックスは、トラックボデーなどの開発・生産・販売・サービスを通じて、環境に与える影響を常に認識し、白山の豊かな自然や社会と調和する企業を目指して、全員参加で環境保全活動を推進します。

1. 私たちは、環境管理システムの効果的な運用と継続的改善をはかり、環境汚染の予防に努めます。
2. 私たちは、環境に関する法規制や私たちが守ると約束した協定・指針などを遵守し、社会とのつながりを大切にします。
3. 私たちは、環境への排出物や廃棄物を抑え、リサイクルを推進し、エネルギーや資源の効率的な利用を進めます。
4. 私たちは、環境に負荷を与える有害な物質の使用量を減らし、ライフサイクルを考慮した環境に優しい製品の開発を進め、提供します。

ISO14001認証取得（発行日現在）

当社は2002年3月にISO14001の認証取得し、現在は2015版に基づき活動しています。

- 組 織 名 株式会社トランテックス
- 事業所名 本社及び工場（石川県白山市徳丸町670番地）
- 対象業務 トラック車体の開発・設計・製造
- 事業所名 山島モータープール（石川県白山市矢頃島町1025番地）※2020年度中に事業所名と対象業務を変更予定
- 対象業務 完成車の出荷業務

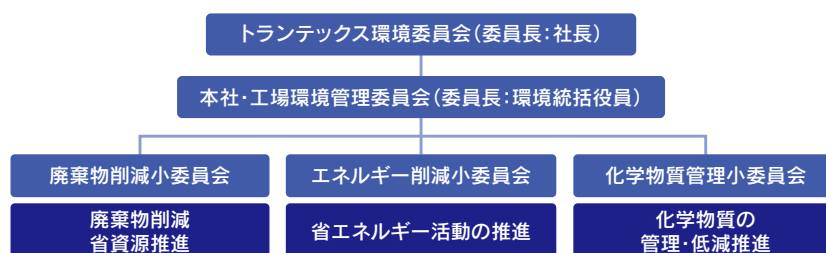
環境目標と実績

【2019年度環境活動実績】

項目	活動内容	活動実績	関連頁								
自然共生社会の構築 環境保全と	生産活動における環境負荷物質の低減 VOCの低減 ●洗浄シンナーの使用量低減	●使用方法見直し・ルール化による使用量低減 ●塗装ホース見直しによる使用量低減	P20								
	<table><tr><th>項 目</th><th>2019年度目標</th></tr><tr><td>VOC原単位 (g/㎡)</td><td>83.4</td></tr></table>	項 目	2019年度目標	VOC原単位 (g/㎡)	83.4	<table><tr><th>2019年度実績</th><th>評 価</th></tr><tr><td>77.7</td><td>○</td></tr></table>	2019年度実績	評 価	77.7	○	
	項 目	2019年度目標									
VOC原単位 (g/㎡)	83.4										
2019年度実績	評 価										
77.7	○										
自然共生社会構築に資する社会貢献活動の推進 ●社会貢献活動の実施	●「クリーンビーチいしかわ」海岸清掃イベントに参加 ●本社工場周辺清掃活動の実施	P24									
低炭素社会の構築	生産活動における省エネ活動の徹底と 温室効果ガス排出量の低減 生産CO ₂ の低減 ●生産性改善による工場稼働時間短縮 ●高効率設備・機器への更新 ●設備稼働時間の短縮	●工場部門を中心とした生産性改善実施 ●ブース排気ファンの更新 ●コンプレッサー及びボイラーの稼働時間短縮	P20								
	<table><tr><th>項 目</th><th>2019年度目標</th></tr><tr><td>生産CO₂原単位 (CO₂-ton/台)</td><td>0.335</td></tr></table>	項 目	2019年度目標	生産CO ₂ 原単位 (CO ₂ -ton/台)	0.335	<table><tr><th>2019年度実績</th><th>評 価</th></tr><tr><td>0.331</td><td>○</td></tr></table>	2019年度実績	評 価	0.331	○	
	項 目	2019年度目標									
生産CO ₂ 原単位 (CO ₂ -ton/台)	0.335										
2019年度実績	評 価										
0.331	○										
物流活動における輸送効率の追求とCO ₂ 排出量の低減 物流CO ₂ の低減 ●効率的な完成車輸送	●一部区間での高速道路利用	P20									
	<table><tr><th>項 目</th><th>2019年度目標</th></tr><tr><td>物流CO₂原単位 (CO₂-千ton/トンキ口)</td><td>0.0670</td></tr></table>	項 目	2019年度目標	物流CO ₂ 原単位 (CO ₂ -千ton/トンキ口)	0.0670	<table><tr><th>2019年度実績</th><th>評 価</th></tr><tr><td>0.0666</td><td>○</td></tr></table>	2019年度実績	評 価	0.0666	○	
項 目	2019年度目標										
物流CO ₂ 原単位 (CO ₂ -千ton/トンキ口)	0.0670										
2019年度実績	評 価										
0.0666	○										
循環型社会の構築	生産・物流における廃棄物の低減と資源の有効利用 廃棄物の低減 ●歩留り改善 ●処理方法の変更	●数アイテムで歩留り改善実施 ●逆有償アイテムの有償処理化	P20								
	<table><tr><th>項 目</th><th>2019年度目標</th></tr><tr><td>廃棄物CO₂原単位 (ton/台)</td><td>0.098</td></tr></table>	項 目		2019年度目標	廃棄物CO ₂ 原単位 (ton/台)	0.098	<table><tr><th>2019年度実績</th><th>評 価</th></tr><tr><td>0.0930</td><td>○</td></tr></table>	2019年度実績	評 価	0.0930	○
	項 目	2019年度目標									
	廃棄物CO ₂ 原単位 (ton/台)	0.098									
	2019年度実績	評 価									
0.0930	○										
物流梱包包装材の低減 ●梱包材簡素化	●同一行き先同梱包による梱包材低減										
<table><tr><th>項 目</th><th>2019年度目標</th></tr><tr><td>梱包材原単位 (ton/百万円)</td><td>0.0313</td></tr></table>	項 目	2019年度目標	梱包材原単位 (ton/百万円)	0.0313	<table><tr><th>2019年度実績</th><th>評 価</th></tr><tr><td>0.0313</td><td>○</td></tr></table>	2019年度実績	評 価	0.0313	○		
項 目	2019年度目標										
梱包材原単位 (ton/百万円)	0.0313										
2019年度実績	評 価										
0.0313	○										
水使用量の低減 ●漏水量の低減	●埋設配管の漏水箇所修繕										
<table><tr><th>項 目</th><th>2019年度目標</th></tr><tr><td>水使用量原単位 (㎡/台)</td><td>12.5</td></tr></table>	項 目	2019年度目標	水使用量原単位 (㎡/台)	12.5	<table><tr><th>2019年度実績</th><th>評 価</th></tr><tr><td>11.8</td><td>○</td></tr></table>	2019年度実績	評 価	11.8	○		
項 目	2019年度目標										
水使用量原単位 (㎡/台)	12.5										
2019年度実績	評 価										
11.8	○										
環境経営	環境教育活動の充実と推進	●各部署での教育実施	P19								
	環境情報の積極的な開示とコミュニケーションの充実	●CSRレポート発行 ●近隣町内会役員の方を交えての地域懇談会開催 ●工場見学の受入れ	P24								
	異常苦情ゼロ・リスクの最小化	●環境管理者による定期パトロール ●環境リスクへ計画的な対応	—								
	環境マネジメント	●環境監査実施 ●環境コスト把握 ●PCB廃棄物の適正保管 ●地下水保全	P18・19								

マネジメント推進体制

トランテックスは環境保全を推進するため、全社の組織として社長を委員長とする「トランテックス環境委員会」を設置し、基本方針の決定と諸活動の総合推進を図っています。また、下部組織として本社・工場環境管理委員会と3つの専門委員会を設置し、本社・工場環境管理委員会は、原則毎月開催とし各種課題の進捗管理・検討・審議等を行っております。また、3つの専門委員会は、事業活動による環境負荷の低減として大きな課題であるCO₂低減・VOCなどの化学物質低減・廃棄物低減などの個別の専門テーマに対して、部門横断的な視点からアプローチをしております。



環境保全コスト

環境保全コストおよび効果を定量的に把握し、環境保全活動に効果的かつ継続的に取り組むため、環境会計に取り組んでいます。尚、環境保全コストは①投資額は対象期間の投資のみとする②経費の中に減価償却分は含めない③環境保全以外の目的を含んでいる設備投資や費用については、環境対応分が明確に把握できるもののみ計上することとしました。環境保全対策にともなう経済効果については、把握可能な項目のみ集計しました。

[単位:百万円]

【環境コストの集計結果】

		2017年度		2018年度		2019年度	
		投資額	費用	投資額	費用	投資額	費用
事業エリア内コスト	公害防止コスト	120	7.2	79	7.5	38	7.6
	地球環境保全コスト	44.5	—	6.3	—	40.1	—
	資源循環コスト	—	93.3	—	92.6	2.4	94.3
	計	164.5	100.5	85.3	100.1	80.5	101.9
上・下流コスト		—	—	—	—	—	—
管理活動コスト	EMSの整備、運用	—	1.5	—	1.1	—	1.2
	環境測定	—	3.6	—	3.8	—	4.5
	従業員の教育	—	—	—	—	—	—
	景観保持	—	—	—	—	—	—
研究開発コスト		—	—	—	—	—	—
社会活動コスト		—	—	—	—	—	—
環境損傷対応コスト		—	—	—	—	—	—
合 計		164.5	105.6	85.3	105.0	80.5	107.6

【経済効果の集計結果】

[単位:百万円(—は十万円未満)]

経済効果	2017年度	2018年度	2019年度
リサイクルによる事業収入	115.8	117.6	73.1
省エネルギーによるエネルギー費の節減	1.1	0.6	0.6
省資源又はリサイクルに伴う廃棄物処理費の削減	0.2	—	—

【物流効果の集計結果】

物流効果	2017年度	2018年度	2019年度
二酸化炭素 (t-CO ₂)	—	267.5	239.9
廃棄物総排出量低減 (t)	—	7.7	—
PRTR対象物質排出量・移動量削減 (t)	—	—	—

環境監査

環境マネジメントシステムの適合性・有効性を客観的に評価するため環境内部監査を行い、外部審査機関による審査を受審しています。また、両監査で取り上げられた内容はマネジメントシステム改善に活用しています。



内部監査



外部審査

環境教育・訓練

環境教育として各所属長を対象とした管理者研修、各職場単位での研修、新入社員研修を行っています。また、環境事故は環境汚染につながるだけでなく、近隣住民の方々や生産活動にも大きな影響を及ぼす可能性があることを再確認するため、各職場単位で毎年、緊急時対応訓練を実施しています。

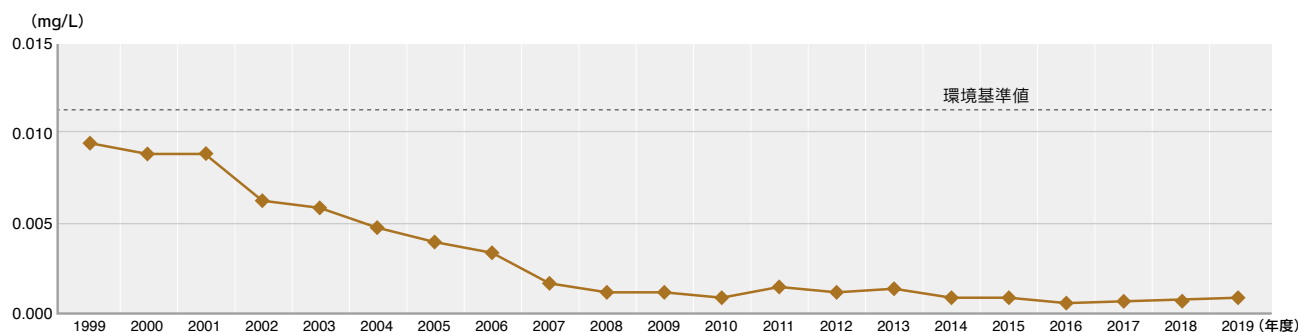


PCB廃棄物の保管と処理

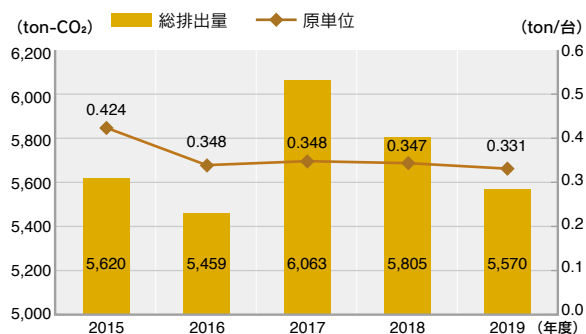
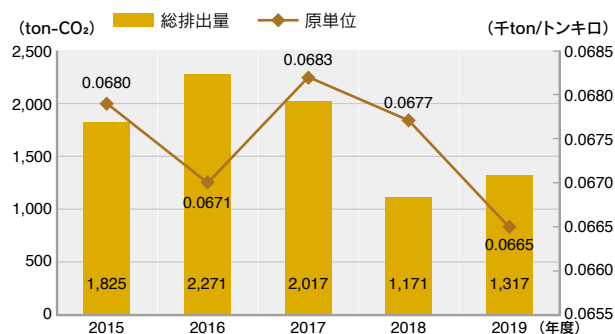
現在、微量PCB含有廃棄物を適正に保管しており、今後、国の認定を受けた処理施設で計画的に処理を行っていきます。

地下水保全への取り組み

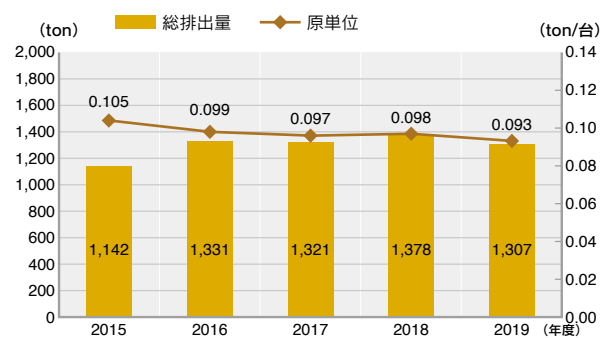
当社では過去に有機塩素系化合物であるテトラクロロエチレンを使用しており、1996年に使用を全廃しましたが1998年に本社・工場敷地内の1ヶ所で環境基準を上回るレベルが確認されました。1998年以降行政指導の下、積極的に浄化対策を進めており、土壌内の汚染ガスの吸引及び地下水揚水による浄化対策の結果、濃度は低位で安定しております。



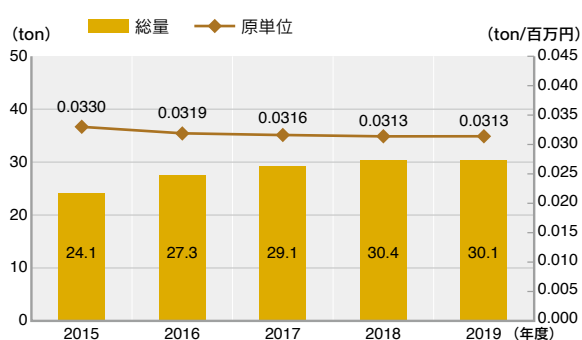
環境パフォーマンスデータ

【生産CO₂】【物流CO₂】

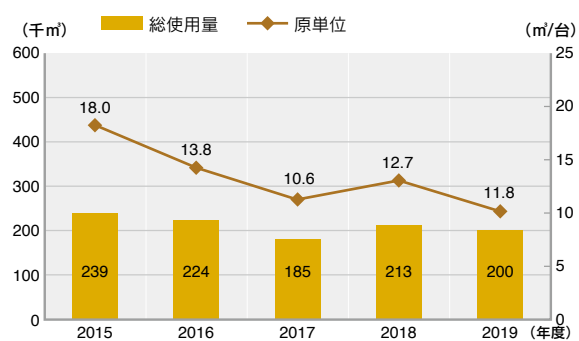
【廃棄物】※ 2



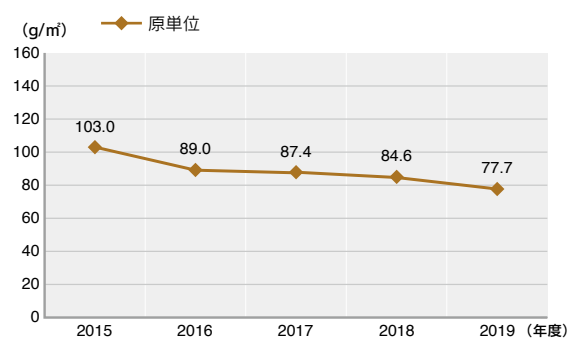
【物流梱包包装資材】



【水使用量】



【VOC】※ 3



(※1) 排出物＝有償リサイクル＋逆有償リサイクル＋焼却＋埋立

(※2) 廃棄物＝逆有償リサイクル＋焼却＋埋立

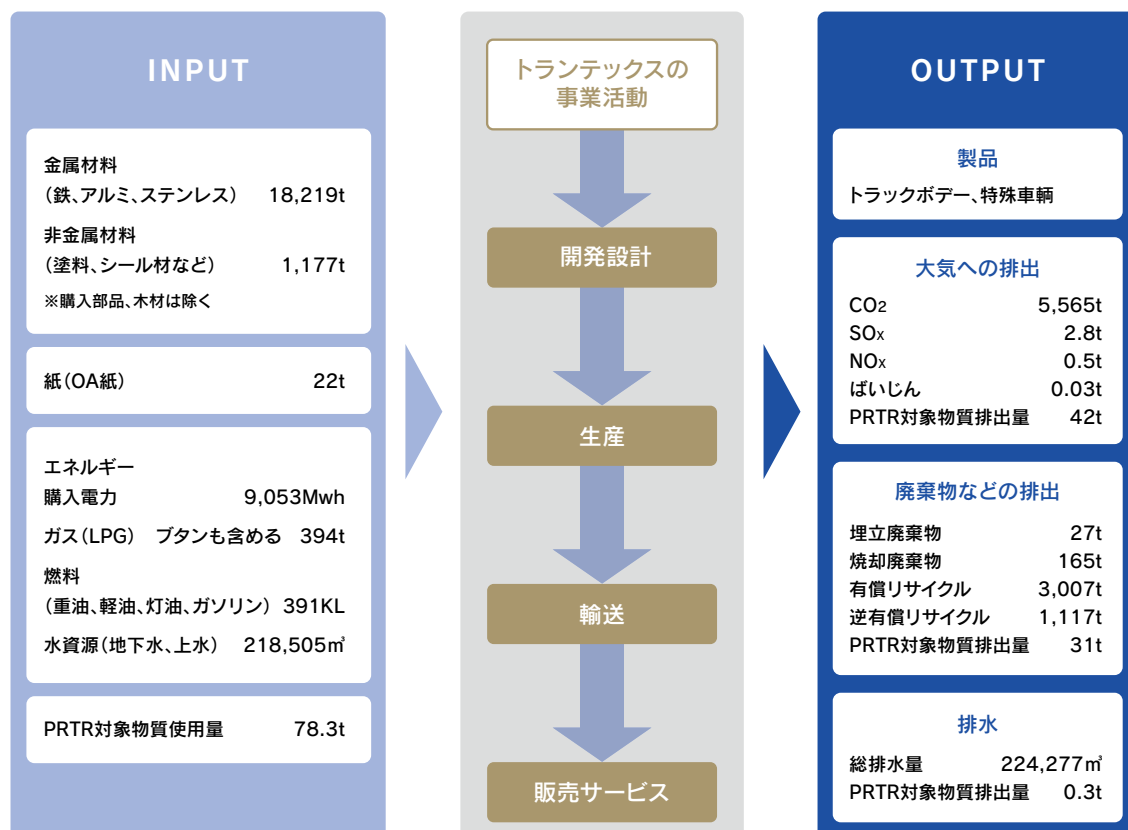
(※3) VOC(Volatile Organic Compounds)：揮発性有機化合物

事業活動と環境影響

事業活動と環境影響

事業活動における投入資源（インプット）と排出による環境負荷（アウトプット）を定量化し、環境への影響を把握して、環境負荷低減活動に活用しています。

【事業活動における2019年度の投入資源と環境への排出】

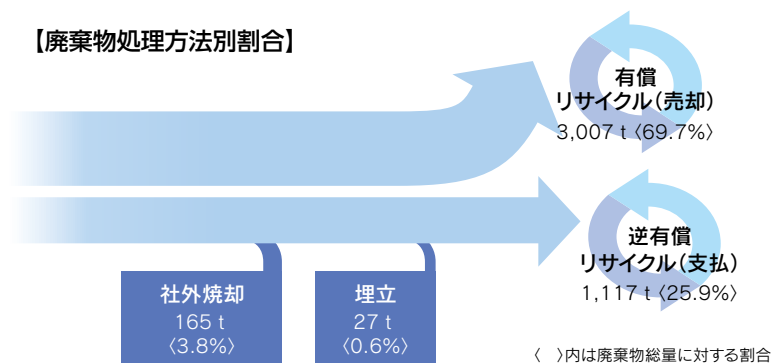


PRTR (Pollutant Release and Transfer Register) : 有害化学物質排出・移動登録制度
 SO_x : 硫黄酸化物 NO_x : 窒素酸化物

廃棄物の処理方法種類と割合

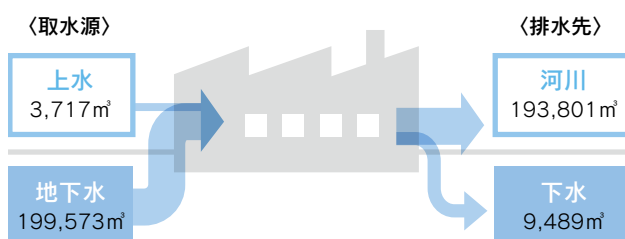
工場内で発生する廃棄物については限りある資源を有効活用していく観点から地道な活動を通して焼却処理や埋立処理からリサイクル処理へのシフトを進めています。

【廃棄物処理方法別割合】



水源別取水量と排水先

工場内で使用される水は主に塗装工程や検査工程で使用されており、地下水でまかなっています。使用後は廃水処理設備で適正な水質に戻してから河川放流しており、定期的に外部の専門業者に依頼して水質検査を行い異常がないことを確認しています。

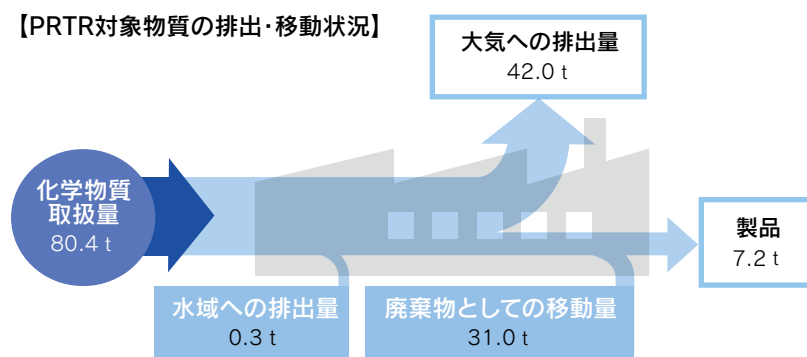


項 目	法基準値	2019年度測定値 (年間最高値)
PH	5.8以上8.6以下	6.4-6.8
BOD	30mg/L以下	11mg/L
COD	—	9mg/L
SS	110mg/L以下	1mg/L未滿
n-ヘキサン動植物油	30mg/L以下	1mg/L未滿
n-ヘキサン鉱油類	5mg/L以下	1mg/L未滿
亜鉛	2mg/L以下	0.8mg/L
溶解性マンガン	10mg/L以下	0.7mg/L
鉛	0.1mg/L以下	0.01mg/L未滿
六価クロム	0.5mg/L以下	0.05mg/L未滿
フッ素	8mg/L以下	0.3mg/L
アンモニア・アンモニウム化合物亜硝酸化合物および硝酸	100mg/L以下	7.4mg/L

大気・水質への化学物質の影響

当社では生産工程での塗料や接着等の使用により大気・水質に影響を与える化学物質を取り扱っています。自主的な活動はもちろん、各サプライヤー様と協力しながら取扱量を減らす努力を続けていきます。

【PRTR対象物質の排出・移動状況】



温室効果ガス使用量 (kg)	
HFC125	343.2
HFC134a	405.6
HFC143a	31.2

(*) 4重金属を含む11禁止物質
 鉛 (Pb)
 水銀 (Hg)
 カドミウム (Cd)
 六価クロム (Cr+6)
 アスベスト
 PBB (ポリ臭素化ビフェニル)
 PBDE (ポリ臭素化ジフェニルエーテル)
 デカBDE (デカ臭素化ジフェニルエーテル)
 HBCD (ヘキサブロモシクロデカン)
 PFOS (パーフルオロオクタンスルホン酸)
 DMF (フマル酸ジメチル)

環境負荷物質(SOC)(*)使用禁止の取組み

当社は2008年生産分から商品に含まれる環境負荷物質全廃(*)を行い、現在は購入する材料・部品の環境負荷物質の有無を事前に確認する体制をとっています。(お客様指定品や一部機器は除きます。)

調 達

基本的な考え方

当社は当社の製品が業界トップの位置を確保できるよう、仕入先の皆様と協力して、ともに発展していくことをめざしています。仕入先様には、コスト・品質・納期の最高レベル実現に向けた調達方針を提示するとともに公正な取引の維持を心がけています。

仕入先様との交流

当社では毎月、仕入先様と仕入先会議を開催し、生産計画の情報提供と品質アップのための仕入先様による品質改善事例発表会を行っています。その他、工場内および周辺での交通ルールの遵守やマナー向上の呼びかけなど、地域社会との共生に係わることについても展開を行っています。

また、毎年1回、仕入先総会を開催し、当社の年度方針・調達方針を共有しています。また年間を通じて原価改善活動や品質管理活動にご功績のあった仕入先様を表彰させていただいております。

（2019年度はコロナウイルス感染拡大防止の観点から開催を中止しました。）

調達方針

当社の商品が、最高の価格競争力を確保できるように、広く世界に門戸を開き、最適な仕入先を選定することにより、

1. ミニマムな価格
2. 最高の品質
3. タイムリーな納期

を実現し、商品の拡販と当社の収益拡大に貢献する。

社会貢献活動

定期的なボランティア活動や近隣の方々との交流を通じて、地域に貢献し、地域に密着した企業を目指していきます。

地域懇談会の開催

毎年、近隣町内会の役員様をお招きして地域懇談会を定期的に行い、事業紹介や環境への取組み事例紹介、工場見学を通じて会社への理解を深めていただいております。2019年度は近隣2町内会から4名の方にお越しいただき、忌憚のない意見交換をさせていただきました。



会社見学の受入れ

13団体で合計649名の方に会社見学にお越しいただきました。小学生はものづくりを学ぶ社会科学習として、高校生は将来、製造業で働くことを選択肢として考えるきっかけとして、また、各種団体様は様々な学習目的の一環としてご利用いただいております。これからもご来社いただく方々のご一助となれますよう、積極的に取り組んでまいります。

【2019年度 会社見学受入内訳】

名称	受入団体数	受入人数
小学校	4団体	249名
高等学校	4団体	206名
その他団体	5団体	194名

清掃活動

地域貢献活動として、石川県海岸全域の清掃活動「クリーンビーチいしかわ in はくさん」への参加と工場周辺の清掃活動を継続的に行っており、両活動とともに多くの従業員が参加し環境美化に努めています。今後も地域イベントへの積極的な参加や実施を続け、環境美化に貢献していきたいと考えております。



ボランティア清掃



海岸清掃

コンプライアンス

当社ではコンプライアンスの実践を経営の重要課題の1つと考えており、全社的なコンプライアンス風土醸成に向けた取組みを継続的に実施し、あらゆる場面で公正な判断・活動ができる企業集団を目指しています。

「トランテックス行動指針」

「トランテックス行動指針」は、基本理念の内容を受けて、各ステークホルダーの皆様の期待に応えるために「社員一人ひとりがどう行動すべきなのか」を具体的に明記した内容となっております。

私たちは、この「トランテックス行動指針」を日々の業務の手引書として活用し、また合わせてコンプライアンスガイドブックを活用することで、法令順守を徹底していきます。そして、各ステークホルダーの皆様の期待にお応えしたいと考えています。



コンプライアンス教育

定期的なコンプライアンス教育を行い、問題発生の未然防止とルールを守る職場風土づくりをしています。また取り扱う題材は業務に関連が深いものや、近時のトピックスを中心とするように工夫し、コンプライアンス問題未然防止に向けたレベルアップを図っています。

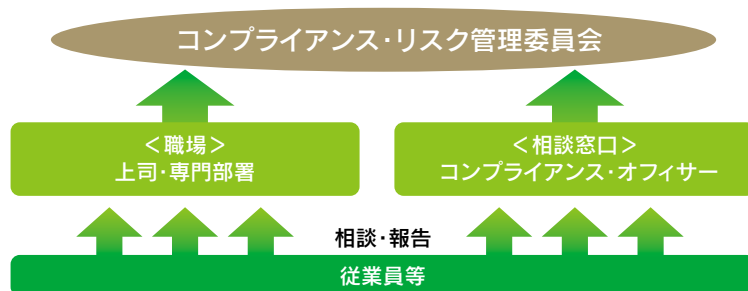


対 象	内 容
役員・管理職	コンプライアンスの実践、ハラスメントの影響
全従業員	情報セキュリティ、金銭不祥事など
営業担当者	下請法、贈収賄防止など
サービス担当者	下請法、贈収賄防止など

コンプライアンス相談窓口

従業員がコンプライアンスに関する問題に遭遇した場合、職場を補完する相談先としてコンプライアンスオフィサーを設置し、社内への周知を図っています。従業員は直通の電話またはE-mailにてコンプライアンスオフィサーに直接相談・報告することができます。また、日野グループとして、外部の法律事務所への相談窓口も設けています。

【参考：従業員の相談・報告ルート】



コーポレートガバナンス

当社は基本理念に基づき、各ステークホルダーの皆さまの期待と信頼に応えるため、コーポレートガバナンスの強化を経営の最重要課題の1つと考えております。具体的には経営の透明性を確保するため、株主総会・取締役会・監査役協議会・会計監査人等の機関設置を行い、また迅速な環境変化への対応と意思決定を図るため、経営判断に基づく業務執行レベルの判断を行う執行役員会を毎週開催するなどの体制を構築しております。

取締役会

会社法で定める重要事項や経営に係わる重要事項の審議決定機関として、原則毎月1回開催しています。また、取締役の任期は、経営責任を明確にするため1年とし、非常勤取締役を1名選任しております。

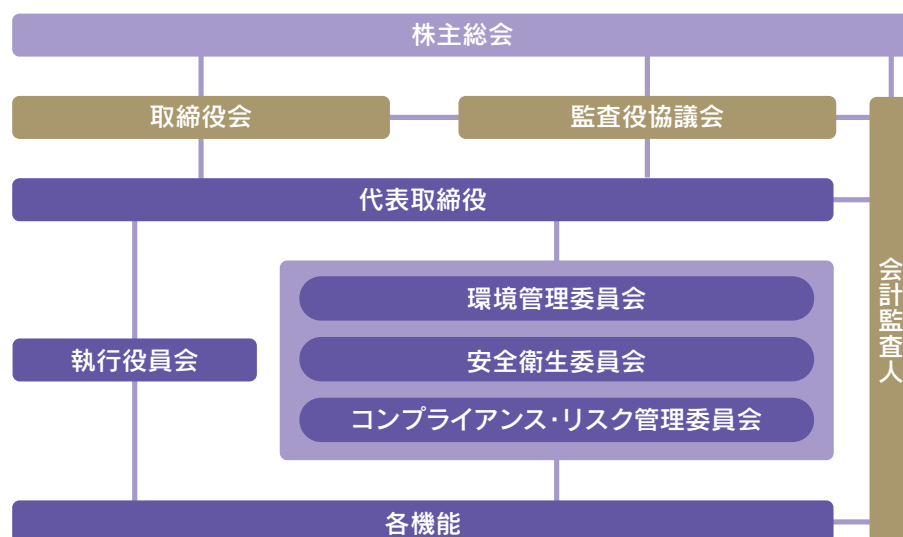
監査役協議会

取締役会の監督機能をより強化するため、常勤監査役以外に2名の非常勤監査役を選任しております。

会計監査人

2019年度はPwCあらた有限責任監査法人を選任いたしました。

【コーポレートガバナンス体制図】



編集にあたって

本レポートは、当社を取り巻くステークホルダーの皆様に当社の活動を深く理解していただき、さらなる信頼をいただくことを目的としています。お読みいただいた皆様とのコミュニケーションツールとして、わかりやすく表現するよう心がけました。

対象範囲・対象期間

原則として2019年度（2019年4月～2020年3月）の実績や取り組みを対象としております。但し、一部の内容については、本レポート発行直前までの活動も記載しています。

参考ガイドライン

- ・環境省「環境省ガイドライン（2018年度版）」
- ・GRIスタンダード（Global Reporting Initiative）



Corporate Social Responsibility Report 2020

本報告書の内容や当社の環境への取組みなどについて、ご意見、ご質問などがございましたら、下記までお問合せください。

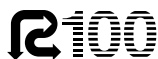
株式会社 **トランテックス** 総務・人事部

〒924-8580 石川県白山市徳丸町670番地
TEL(076)274-2806 FAX(076)274-8191

ホームページアドレス <http://www.trantechs.co.jp/>

発行日 2020年11月

※この報告書はトランテックスホームページ上でもご覧いただけます。



古紙配合率100%再生紙を使用しています

